

＜丘膨らみ富士縮む＞二十四節季の“立夏”。「暦の上では夏」と言っていたのは過去の話で正に気温は夏です。台風6号変じた熱帯低気圧の運んできた南の暖かい空気によるらしいですね。久しぶりに姿を見せた富士の雪は昨年の6月下旬位に少なくなっています。手前の雑木林は青々と茂りこの2ヶ月ほどで大きく膨らみました。そのせいか春分の頃に比べ富士が幾分縮んだように見えます。(No.35 参照)



＜花から実へ＞遅咲きのサクラが花を終え一月

足らずで赤とか黒の小さな実を沢山付けています。これは渋くて食べられませんが、小粒ながら甘いサクランボをみごとに付けているミザクラもあります。一方、ミカンの仲間は今が花どきで甘い香りを漂わせています。中でも、



＜サクランボ (品種: 暖地) >

＜オニユズ>

冬にかけて厳(いか)つい大きな実を付ける“オニユズ”が「実に似合わず(?)」少しピンク掛かった綺麗な花を付けています。



＜林では＞雑木林の縁辺ではミズキの真っ白な花が足早に咲きそして散り終わりました。代わってヤマボウシとウツギが咲き出しました。地面近くには“ハンシ

＜ミズキ>

＜ハンショウヅルとヒメヒカゲ>



ョウヅル”の赤い花が所々に咲いています。花の形が半鐘に似ているのでこの名があるようです。もっと地面に近い道端のあちこちには“スズメノヤリ”が柄を伸ばし地味な花を付けています。ただ数が多いので目に付きます。写真のような姿から大名行列の毛槍を想い浮かべたようです。小さな植物の名に“スズメ”がしばしば付けられますね。“スズメノカタビラ”を纏い“スズメノヤリ”や“スズメノテッポウ”を担いだスズメ達を想像するだけで

＜左上:スズメノヤリ、左下:ラミーカミキリ> 笑みがこぼれます。

＜元気一杯＞日当たりの良い野辺ではカラムシがぐんぐんと背を伸ばし大きな葉を風にそよがせています。葉には元気に動き廻るいろんな昆虫たちが見られます。その一つが“ラミーカミキリ”です。大きさ2cmほどですが少し青みがかかった白と黒の模様が際立ちます。“ラミー”はカラムシの繊維を指すようで、このカミキリは親も子もこの草で暮らします。

(文と写真: 松本正勝)